

総合計画体系	政策No.	1	政策名	安全でみどり豊かな人がつながるまちの形成	施策主管課	市民部 みんなでまちづくり推進課
	施策No.	2	施策名	市民参加のまちづくり	施策主管課長名	小野 まゆみ
施策関連課名			秘書課、政策推進課、議会事務局、生涯学習課			

1 施策の目的と指標

① 対象(誰、何を対象としているのか) * 人や自然資源等	市民 外国人	→	③ 対象指標 (対象の大きさを表す指標) * 数字は記入しない		
			名称	単位	
② 意図(この施策によって対象をどう変えるのか)	市民が自主的にまちづくりに参加・参画するようになる。	→	④ まちづくり指標 (意図の達成度を表す指標) * 数字は記入しない		
			名称	単位	
・まちづくり指標設定の考え方 (理由、数式も) ・まちづくり指標の測定規格 (手段はアンケートか、統計か)		→	A	「協働」や「協働のまちづくり」について知っていると回答した市民の割合	%
			B	職場や地域で男女差を感じている市民の割合	%
			C	審議会等における女性委員の比率	%
			D	日本語教室への参加者数	人
			E		
			A: 協働のまちづくりの認知度を示す。【市民アンケートの「協働」や「協働のまちづくり」の意味をご存知ですか?」において「知っている」と回答した人の割合】 B: 男女共同参画意識の浸透度を示す。【市民アンケートの「職場や地域で男女差別を感じていますか?」において「感じる」「まあまあ感じる」と回答した人の割合】 C: 市政への女性の参画状況を示す。【「法律・条令等により設置されている審議会等一覧」の委員数のうち、女性委員の割合】 D: 外国人との共生に関する成果を示す。【日本語教室に参加した外国人の参加実人数】		

2 指標等の推移

指標名	単位	数値区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
対象指標	A 人	見込み値		72,644	72,322	72,001	71,680	71,359	71,038
		実績値	72,963	72,715	72,305				
	B 人	見込み値		838	790	742	694	646	598
実績値		884	890	870					
まちづくり指標	A %	目標値		未設定	15.0	20.0	25.0	30.0	35.0
		実績値		10.7	23.5	21.3			
	B %	目標値	21.0	20.0	19.0	18.0	17.0	16.0	15.0
		実績値	24.9	20.7	25.8	27.5			
	C %	目標値	38.6	40.0	38.4	38.8	39.2	39.6	40.0
実績値		37.7	35.3	34.3					
D 人	目標値	未設定	未設定	32	34	36	38	40	
	実績値	31	23	30.0					
E	目標値								
	実績値								
関連事業本数			41	42	40	40			
関連事業予算額 (単位:千円)			88,408	91,083	57,950	71,887	0	0	0
(予算額の内訳)	国庫支出金		0	0	0	0			
	県支出金		35,273	35,982	0	0			
	地方債		0	0	0	0			
	その他		2,558	7,976	5,874	8,033			
一般財源			50,577	47,125	52,076	63,854			

目標値の設定の根拠 (前提条件や考え方等)	A: H26市民アンケートで「聞いたことがある」と回答した26.9%を、協働事業推進により「知っている」と回答してもらえるよう取り組みを強化し、5年間で約25%の増加を見込む。 B: 家庭・地域・職場での男女共同参画を推進し、5年間で約5%の減少を見込む。 C: 「南アルプス市審議会等の委員への女性委員登用に関する指針」に基づき、男女ほぼ同数の構成(45%)を目指して目標値を設定。 D: 日本語の学習だけでなく相談機能の強化により、5年間で約10人の参加者の増加を見込む。
-----------------------	---

3 評価結果

施策の有効性評価

① 目標達成度評価（目標値と実績値との比較）

- 目標値より高い実績値だった
 目標値どおりの実績値だった
 目標値より低い実績値だった

※左記の理由

指標A「協働」や「協働のまちづくり」について知っていると回答した市民の割合については、高い実績値、指標B「職場や地域で男女差を感じている市民の割合」C「審議会等における女性委員の比率」については目標値は達成していないが、「感じていない。」と回答している市民は家庭内、職場、地域ともに向上した。指標D「日本語教室への参加者数」は若干下回った。

② 時系列比較（過去5ヶ年の比較）

- 成果がかなり向上した
 成果がどちらかと言えば向上した
 成果はほとんど変わらない（横ばい状態）
 成果がどちらかと言えば低下した
 成果がかなり低下した

※左記の理由

指標A「協働」や「協働のまちづくり」について知っていると回答した市民の割合については、27年度より向上した。指標B「職場や地域で男女差を感じている市民の割合」については横ばい、C「審議会等における女性委員の比率」については25年度に審議会の見直しがあり向上したがその後横ばい。指標D「日本語教室への参加者数」は外国人人口の減少もあり、横ばい状態。

③ 他自治体との成果実績値の比較

- かなり高い成果水準である
 どちらかと言えば高い成果水準である
 ほぼ同水準である
 どちらかと言えば低い成果水準である
 かなり低い成果水準である

※左記の理由

指標B「職場や地域で男女差を感じている市民の割合」については山梨市は50%を超えており、当市27.5%はかなり高い水準。また、審議会等における登用状況についても、甲斐市26.1%、笛吹市26.1%と比べ当市34.3%は高い水準である。協働のまちづくり事業申請数については、新規事業では山梨市4件、甲州市0件、本市7件とかなり高い実績といえる。

④ 住民の期待する成果水準との比較

- かなり高い成果水準である
 どちらかと言えば高い成果水準である
 ほぼ同水準である
 どちらかと言えば低い成果水準である
 かなり低い成果水準である

※左記の理由

「市民参加のまちづくり」については、協働・男女共同参画の推進、交流活動の充実ともに重要視傾向も低く、満足度傾向も低いため同水準とした。一部の市民にしか理解されていない為、携わる市民が少ないことが伺える。

4 まとめ

施策の課題抽出とその課題解決（成果向上）の方向性と具体的な取組内容

施策の課題抽出	課題解決の方向性	具体的な課題解決・改善内容
家庭、地域、職場において男女それぞれの意識改革が十分ではない。	第2次ハーモニープランにもとづいた全庁的な取組みを推進をする。ハーモニープラン推進会議による部会を活発化する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ハーモニープランを計画的に推進するために、推進委員による効果的な企画を立案し、男女共同参画を促進するため各部会による取組みを実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭部会による啓発パンフレットの作成 ・地域社会部会による自治会連合会との合同研修会の開催 ・職場部会による企業との合同セミナーの開催 ○ハーモニープラン41数値目標にもとづく事業の目標達成に向けた取組みを実施する。 ○意識啓発を行うためホームページで継続的に男女共同参画に関する情報発信を行う。
市民や団体が主体的にまちづくりをおこなう取組みが少ない。	多種多様な主体と幅広い連携を促進することで一体となったまちづくりを実現するため「協働のまちづくり基本方針」「協働のまちづくり行動計画」を改定する。また、市民や団体の取組みを支援するコーディネーターを活用し、具体的な事業として実現に導く。	<ul style="list-style-type: none"> ○みんなでまちづくり推進会議において協働のあり方について市民、市民活動団体、NPO、行政の立場からそれぞれの役割や課題を抽出し、これからの協働のあり方について「協働のまちづくり基本方針」「協働のまちづくり行動計画」を見直しを行う。 ○市民活動コーディネーターの研修会参加の機会を確保し、市民活動団体が行う活動や勉強会を支援できる体制を構築する。 ○人材育成の場として「WAKAMONO大学」を開催する。 ○市民の活動を支援するため「活動支援テーマ型活動助成事業」を実施する。
国際交流協会について、市から職員を派遣していることなど、国際交流協会の運営体制が組織としてまだまだ脆弱である。	国際交流協会の自立に向けた組織強化。	事務局、職員体制などを含め、市と協会の役割分担をより明確にし、国際交流協会のプロパーとしての雇用ができるよう、自立への支援の検討を行う。また、日本語教室の開催など異文化交流を推進する中で、国際交流団体を支援し、組織の強化を図る。